

みどりの風

8

2020(令和2)年 vol.367

今月の表紙

草原の夏

(撮影:岡部秀朋様)

第7回 未来に伝えたい農業・農村の風景
フォトコンテスト入選作品

- JA熊本中央会・各連合会の通常総会を開催
- 「高収益作物次期作支援交付金」
県へ運用改善を緊急要請
- 新型コロナウイルス感染症対策支援拡充を
緊急要請
- 第2次補正予算成立、農家経営支援が
拡充される
- 参議院議員藤木しんや氏コラム
- 参議院議員山田としお氏コラム
- 藤木しんや活動報告
- 中央会・連合会からのお知らせ



あぜみち

7月に入り、気温の上昇と湿度などの条件がそろそろ、食べ物の中で細菌が増殖し、食中毒が発生するリスクが高まる。今年はコロナ禍において、細菌とウイルスのどちらにも注意を要する要になりそうだ。

新型コロナウイルス感染症の主要な感染経路は飛沫感染と接触感染で、生で喫食する野菜・果実や鮮魚介類を含み、食品を介して新型コロナウイルス感染症に感染したとされる事例は報告されていない。よって、通常の食中毒予防のために行っている一般的な衛生管理が実施されれば、安心して消費者に食してもらいつつができる。

一方、6月16日の日本農業新聞では、「家庭でHACCP(ハサップ: 危害分析重要管理点)始めよう」との見出しで、食中毒を家庭で防ぐ方法を紹介している。

記事では、家庭での食中毒予防として「付けない」(調理前に手を洗う、食材を水洗する、保管による菌の増加を抑える)、「増やさない」(室温で放置しない、残った食材は手早く十分に冷やす)、「やつづける」(十分加熱する)を3原則として挙げている。

新型コロナウイルスの第2波が懸念される中、食品のテークアウトや宅配の増加で、昨年に比べ食中毒患者数も増加しているという報告があることから、調理から長時間後に食する自作弁当や、持ち帰る惣菜・食べ物などにはHACCPを参考に十分注意しながらこの夏を乗り切りたいものだ。

JJA熊本中央会・各連合会の通常総会を開催

JJA熊本中央会・各連合会は、6月30日、JJA熊本経済連7階ホールにて通常総会を開催しました。

中央会および各連合会の令和元年度事業報告・収支決算・役員選任等の各議案について承認されました。

総会で、JJA熊本中央会の宮本隆幸会長は、「コロナ禍はJJAグループの事業運営にも大きな影響を及ぼした。緊急事態への対応を含め、気候変動による農業への影響や信用事業の収支悪化など、解決しなければならない喫緊の課題がある。今こそ、グループが一丸となつて課題に取り組み、農業者の所得増大を図るとともに、それを支えるための経営基盤の強化を進めなければならぬ。食料・農業を次の世代につなぐため、皆様の理解と協力をお願ひしたい」と挨拶しました。

会長は、「コロナ禍はJJAグループの事業運営にも大きな影響を及ぼした。緊急事態への対応を含め、気候変動による農業への影響や信用事業の収支悪化など、解決しなければならない喫緊の課題がある。今こそ、グループが一丸となつて課題に取り組み、農業者の所

得増大を図るとともに、それを支えるための経営基盤の強化を進めなければならぬ。食料・農業を次の世代につなぐため、皆様の理解と協力をお願ひしたい」と挨拶しました。



▲通常総会の様子



▲新任されたJJA熊本経済連 丁道夫会長

▲再任されたJJA熊本中央会 宮本隆幸会長

中央会・各連合会の役員は次の通りです。

◆中央会

▽代表理事会長＝宮本隆幸（再・JJA熊本市）▽副会長理事＝福田勝

人づくり、県域組織整備の各分野における重点取組み事項を説明しました。

JJA熊本経済連の加末誠一会長は、挨拶で「国内農業は、農畜産物の市場価格下落などの影響で、生産基盤の弱体化が懸念される。産地・実需者と連携し、事業・地域経済の回復・活性化や、生産者の継続的・安定的な生産環境づくりに取り組む必要がある」と述べました。

JJAあしきたの丁道夫（新・JJAあしきた）▽副会長理事＝三角修（新・JJA菊池）▽代表理事＝梶原哲（新・JAかみまさき）▽代表理事常務＝多久嘉秀（新・学経）▽代表監事＝堀幹男（新・JA熊本うき）

◆経済連

▽代表理事会長＝丁道夫（新・JJAあしきた）▽副会長理事＝三

角修（新・JJA菊池）▽代表理事＝梶原哲（新・JAかみまさき）▽代表理事常務＝多久嘉秀（新・学経）▽代表監事＝堀幹男（新・JAあしきた）▽常勤監事＝高濱泉（新・前掲）▽常勤監事＝高濱泉（新・前掲）▽常勤監事＝高濱泉（新・学経）

◆共済連

▽運営委員会会長＝宮本隆幸（再・JJAあしきた）▽運営委員会副会長＝大仁田勲（新・JA鹿本）

◆厚生連

▽代表理事長＝宮本隆幸（再・JJAあしきた）▽副会長理事＝福田勝徳（新・前掲）▽代表理事常務＝西野良二（再・学経）▽代表監事＝堀幹男（新・前掲）

◆県JAバンク運営協議会

▽運営協議会議長＝宮本隆幸（再・JJAあしきた）▽運営協議会副議長＝浦津健次（新・JAたまな）

◆県農業信用基金協会

▽会長理事＝原山寅雄（新・JA阿蘇）▽専務理事＝岡山幸市（新・学経）



▲県農林水産部 竹内部长に要請書を渡すJJA熊本中央会 宮本会長(右)

県へ運用改善を支援交付金

県へ運用改善を緊急要請

JAグループ熊本と県農政連は、6月10日、新型コロナウイルス感染拡大に伴う国の経済対策「高収益作物次期作支援交付金」の運用改善を求め、県へ緊急要請を行いました。

県庁を訪れたJJA熊本中央会の宮本会長は、県農林水産部の竹内部长に要請書を提出し、「農家の経営は大変厳しい状況にある。農家の経営継続における交付金の柔軟な運用を国へ働きかけて頂きたい」と訴え、第2次補正予算での交付単価引上げ対象に、施設園芸品目の選定を幅広く追加することを求めました。

第1次補正予算で創設された同交付金は、新型コロナウイルスの影響による需要の減少で影響を受けた野菜・花卉・果樹・茶等の高収益作物について、次期作に前向きに取り組む生産者を支援する目的で交付されるものです。第2次補正予算では、新たに施設園芸の交付単価を設定するなど支援が拡充されました。

新型コロナウイルス感染症対策支援拡充を緊急要請

第2次補正予算成立、農家経営支援が拡充される

う生産者が対象となります。

J.Aグループ熊本と県農政連は、6月21日、「県選出国会議員への緊急要請集会」を開催し、JA組合長・連合会会長など約50名が、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受ける生産者への支援策の拡充・強化を求める緊急要請を行いました。

挨拶で、JA熊本中央会 宮本隆幸会長は、「農業者の経営は大変厳しい状況にある。生産者の心が折れないよう、農業経営の継続に向け、さらなる国への支援をお願いしたい」と述べ、要請書を手渡しました。

要請書では、新型コロナウイルスの感染拡大によるインバウンド（訪日外国人）需要や国内外食需要の激減による、農畜産物販売価格等への甚大な影響と、生産者のかつてない苦境を訴え、支援対策の運用改善や追加措置など、農業者が経営を持続していくために必要な対策の強化や運用改善を盛り込んでいます。

また、意見交換では「牛マルキン算定方法改定の見直し」「食料安全保障と食料自給率の向上対策」「経営継続補助金の上限引上げ」「セーフティネット資金の返済期間を20年へ延長」などの意見が出されました。意見・要望を受けた県選出国会議員は、制度の見直しや予算獲得に向けて努力していきたいと回答しました。



▲県選出国会議員へ要請書を渡す
JA熊本中央会 宮本会長(左から3人目)

- (3) (1) 4. (2) (1) 中山間地域対策の強化
- (2) 畜産・園芸・果樹対策
- (1) 水田農業対策

- (1) 農業人材確保・援農対策の強化
- (2) 中小・家庭経営対策の拡充
- (3) 新規就農、経営継承対策の拡充
- (4) 食料自給率向上のための国民運動の展開
- 2. 食料安全保障の基盤となる「農村の総合的振興対策」

JA熊本中央会 宮本隆幸会長は、「農業者の経営は大変厳しい状況にある。生産者の心が折れないよう、農業経営の継続に向け、さらなる国への支援をお願いしたい」と述べ、要請書を手渡しました。

要請書では、新型コロナウイルスの感染拡大によるインバウンド（訪日外国人）需要や国内外食需要の激減による、農畜産物販売価格等への甚大な影

響と、生産者のかつてない苦境を訴え、支援対策の運用改善や追加措置など、農業者が経営を持続していくために必要な対策の強化や運用改善を盛り込んでいます。

I. ◎緊急要請書の内容（概要）

- 1. 新型コロナウイルス対策の継続・強化（用改善）
- 2. 高収益作物次期作支援交付金（運延長等金融対策）
- 3. 農林漁業セーフティネット資金の貸付期間
- 4. 肉用牛肥育経営安定交付金制度（牛マルキン）算定方法の見直し等
- 5. 持続化給付金の適正な申請の周知強化

II. 令和3年度農業政策・予算概算要求

等の重点要望

- 1. 生産基盤強化に向けた農業人材確保施策の拡充

優良肉用子牛生産推進緊急対策事業

- 牛肉需要の低迷と肉用子牛の価格下落を受け、生産基盤の弱体化が懸念される肉用牛繁殖農家に向けた対策事業として、奨励金が交付されます。

<第2次補正予算 農業関連対策のポイント>

経営継続補助金

◇感染拡大防止対策を行いつつ、販路回復・開拓や事業継続・転換のための機械・設備の導入や人手不足解消の取組みを総合的に支援し、地域を支える農林漁業者の経営の継続を図るもの。

優良肉用子牛生産推進緊急対策事業

◇新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、肉用子牛の価格が急落しており、生産者の意欲低下による生産基盤の弱体化が懸念されるため、経営改善に取組む肉用子牛生産者を支援するもの。

高収益作物次期作支援交付金

◇新型コロナウイルスの影響による需要減少により市場価格が低落するなどの影響を受けた野菜・花卉・果樹・茶等の高収益作物について、次期作に向けた発動基準を下回った場合に販売の各段階で肉用牛農家を支援します。

新型コロナウイルス農業関連対策

新型コロナウイルス感染拡大に伴う農業関連対策を盛り込んだ第2次補正予算が成立しました。価格低迷などの影響を受ける農業者が、経営を継続するための新たな補助金の創設等と併せ、第1次補正予算の事業運営が拡充されます。

経営継続補助金

中小を含む農林漁業者に最大150万円を補助する「経営継続補助金」が新設されました。

同補助金は、常時従業員数が20人以下

の農林漁業者が行う、経営の維持に向けた取組みが対象となります。事業等の取組み費用の4分の3を上限100万円、さらに消毒などの感染防

止対策費用を上限50万円で補助します。持続化給付金とは異なり、一定の取組みに対しても補助するものであるた

ました。

1次補正の時点では、露地・施設園芸ともに共通の単価となっていましたが、施設栽培は資材や光熱費など面積当たりの生産コストがより多くかかることがあります。これを考慮し、運用が拡充されました。

1万円または3万円となっています。需要の減少により、市場価格が低迷するなどの影響を受けた園芸品目の支援対策として、施設栽培の花卉などに10アール当たり80万円の単価を新設しました。

奨励単価は、発動基準により一頭当たり1万円または3万円となっています。

う生産者が対象となります。

1次補正の時点では、露地・施設園芸とともに共通の単価となっていましたが、施設栽培は資材や光熱費など面積当たりの生産コストがより多くかかることがあります。これを考慮し、運用が拡充されました。

需要の減少により、市場価格が低迷するなどの影響を受けた園芸品目の支援対策として、施設栽培の花卉などに10アール当たり80万円の単価を新設しました。

1次補正の時点では、露地・施設園芸とともに共通の単価となっていましたが、施設栽培は資材や光熱費など面積当たりの生産コストがより多くかかることがあります。これを考慮し、運用が拡充されました。

需要の減少により、市場価格が低迷するなどの影響を受けた園芸品目の支援対策として、施設栽培の花卉などに10アール当たり80万円の単価を新設しました。

全国農政連推薦・県農政連公認
参議院議員藤木しんやの

永田町でも百姓宣言

【異例感づめ国会が閉会】

1月20日に召集され、6月17日に閉会した通常国会は、新型コロナウイル

入の感染拡大を受け、3月以降の国会審議、農水省の公務は新型コロナ問題一色。緊急事態宣言の発出、段階的な解除から全面解除と、刻一刻と変わる状況に必死に対応してきました。

自民党でも各部会や議連、勉強会の開催が原則ストップし、永田町での過ごし方も大きく変化しました。こうした中、国会審議も予定通りとはいからず、種苗法改正案は秋の臨時国会以降に先送りとなりました。国会会期中であれば、普段は多くの支援者や関係者、陳情にいらっしゃる方々で溢れる議員会館も閑散としています。緊急事態宣言が解除され、県域を跨ぐ往来が徐々に増えてくると思いますが、第2波、第3波への警戒も重要です。最近、都心の過密な空間から、地方の魅力が注目されています。この機により一層、食料安全保障の強化、農村振興対策に取り組みます。特に、食料安全保障は生産現場の方々と力を合わせ、生産基盤を守るために全力で頑張ります。



▲参議院農林水産委員会にて答弁

第1次、第2次と補正予算が審議され、
合計で事業規模約234兆円、財政支
出約60兆円という巨額の経済対策が措
置され、農林水産関係では1次補正で
5448億円、2次補正予算で658
億円を確保することができました。
生産現場の不安や混乱を払拭し、農
林水産業の皆さまが前向きに取り組む
ことが出来るよう支援策の策定に力を
入れてまいりました。

地域を担う農家の経営継続を維持す
るための「経営継続補助金」の措置や、
生産体制強化に向けた「高収益次期作
物栽培・耕種機械化支援交付金」の支援策をはじめ、金融
支援策、飲食需要の喚起策など必要と
なる対策を講じています。ご不明な点
は、お気軽にお問い合わせください。

めの令和2年度補正予算の審議です。第1次、第2次と補正予算が編成され、合計で事業規模約234兆円、財政支出約60兆円という巨額の経済対策が措置され、農林水産関係では1次補正で5448億円、2次補正予算で658

参議院議員山田としおの農政問題に転り込む

【コロナの行方とその対策】

緊急事態宣言は解除されたものの、我慢に我慢を重ね、引き続き三密を避けた生活が求められます。

きています。心配の種は、必要な種子が手に入らなくなるのではといふこと、これまで農業者自らが自家採種していくのに、それが出来なくなつて、よそから高いものを買わなければならぬのがいかにもうことです。

「種苗法改正に向けて、

農林水産関係の予算は全体で1次・2次補正で6106億円に上っています。内容も多様です。現場で「こう使おう」という知恵が働くようにされたいなと思います。

江藤農林水産大臣の明快な訴え】

2年前の種子法の廃止に始まつた種苗法の改正は、これまでの農業者や地域の取り組みを抜本的に変えかねず、生産農家に大きな負担を与えるものだとする心配の声が全国から出て

されてします。
大臣は、今回の種苗法の改正で、大切な種子・種苗は、海外に流失させないと明確に規定するとしています。今回の改正は、こうした意義を持つものなのです。

参議院議員



Fujiki Shinya
activity report

藤木しんや

活動報告



国会答弁で畜産農家の実情を説明
(参議院農林水産委員会)



「たべる!のむ!かさる!
産地応援プロジェクト」



WEB会議で有識者と意見交換
(農水省コロナウイルス対策本部)



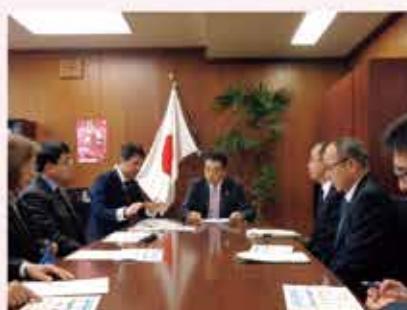
耐候性ハウスの実証実験圃場を視察
(群馬県川場村)



家畜伝染病予防の水際対策を確認
(那覇空港)



50万パワー☆を実感
(JA全国女性大会)



茨城県大井川知事とCSF対策を協議
(農水省政務官室)

JA中央会

JA熊本中央会「未来塾」開講

JJA熊本中央会は6月4日、合志市のJJA熊本教育センターで2020年度JJA戦略型中核人材育成研修「未来塾」の開講式を開きました。農業・JJAの

環境変化に対応したJA自己改革を進めるために、JA運営の核となる人材を育成します。

研修会には、県内JA・連合会から選抜された13人が参加しました。全10回の研修でグループ討議や演習を通し、マーケティングや組織マネジメントなどを学びます。2004年度に開始し、これまで214人の修了生を輩出しています。

JJA熊本中央会の宮本隆幸会長は「JAグループは将来にわたり農業



▲研修生を激励する宮本会長



▲研修生を代表して宣誓する内田さん

を守り、国民に安定的に農畜産物を供給していくにはなければならない」と強調し、「現場の先頭に立つて様々な課題に取り組んでほしい」と塾生を激励しました。

研修生代表として、JA熊本うきの内田康生さんが「組合員の負託に応えられるJAづくりのため、しっかりと学びたい。また、研修修了後の実践において相互支援できる仲間づくりにも取り組みたい」と宣言しました。

今後、2021年1月に塾生たちの修了セレモニー発表会を開く予定です。

JA経済連

令和2年産夏秋野菜生産販売対策会議
（夏秋野菜の安定出荷を目指す）

⑤夏秋野菜の安定出荷

業種とのコラボ企画やSNS・マスマディアを活用した情報発信に取り組んでもらいたい」との要望が上がりました。

夏秋野菜生産販売対策会議を開催しました。

今期の夏秋野菜販売目標金額78億円達成に向け、産地連携による販売体制の強化として【青果物】・【トマトセンター】の機能の発揮】と【産地と一体となつた熊本ファンづくり】

本年産夏秋野菜の生産出荷計画（7月10日）は、作付面積1062ヘクタール（前年比93%）、出荷数量2万2485トン（前年比103%）を見込み、長雨や干ばつなど気象変動が激しかった2019年実績より微増の出荷計画となっています。



▲意見を交えながら产地連携を強化する様子

新型コロナウイルス感染対策を行い、規模を縮小した会議には、同経済連と県内ＪＡ担当者24名が出席。同経済連の川部輝久園芸部次長は「夏秋野菜の本格的な出荷がこれから始まっていく。市場と産地の連携をしっかりと取りながら、「精度の高い牛産出荷情報」と「販売情報」、「競合産地情報」の共有化による販売力強化に努め、農家所得の最大化を目指す。」と力を込めました。

意見交換では、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、消費地での対面試食宣伝などの消費者へのPRが困難な状況であることに触れ、JAからは「(J)のような状況だからこそ、異

新型コロナウイルス感染対策を行い、規模を縮小した会議には、同経済連と県内ＪＡ担当者24名が出席。同経済連の川部輝久園芸部次長は「夏秋野菜の本格的な出荷がこれから始まっていく。市場と産地の連携をしっかりと取りながら、「精度の高い牛産出荷情報」と「販売情報」、「競合産地情報」の共有化による販売力強化に努め、農家所得の最大化を目指す。」と力を込めました。

意見交換では、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、消費地での対面試食宣伝などの消費者へのPRが困難な状況であることに触れ、JAからは「(J)のような状況だからこそ、異



お子さまの学資金づくりに。



くらしの保障、相談するなら



●ご加入にあたりましては、お近くのJA(農協)へお問い合わせください。
■JA共済ホームページアドレス <https://www.ja-kyosai.or.jp>

20461050161

● 7月・8月限定 ●

夏期特別メニュー

焼きしゃぶ

サービス

夏期特別メニューには、旬の一品、ご飯、汁物、デザートが付いてきます。

(焼きしゃぶ：肉・お野菜・タレ・小鉢付)

- ・うんどうポーク焼きしゃぶ 3,700円～
- ・和王・特旨焼きしゃぶ 5,200円～

KUMAMOTO

しのじの

TEL 096-356-1029

しのじの 楽農

hugの最新号が配布中じゃ!

ミッション博士

今日は熊本県産の黒毛和牛、「和王」を特集するよ!!

QRコード

アグちゃん

YouTubeで過去動画もチェック♪

JAグループ熊本

ワオ～

グリくん

●盟友の皆様のご意見や周辺地域の話題、写真などをお寄せ下さい。
連絡先 熊本県農業者政治連盟

五穀豊穣を祈る阿蘇神社の農耕祭事の一、「御田植神幸式」(通称「おんだ祭」)は、阿蘇神社の12の神々を乗せた神輿と、総勢200名の神幸行列が青田を練り歩き、神様に稻の生育具合を見て頂く神事です。白装束に身を包み、神様の食事を入れた桶を頭に載せた「宇奈利(うなり)」と呼ばれる女性達が、ゆつたりと阿蘇の田園を進む姿は、厳かで神秘的に見えます。今年の神幸行列は、新型コロナ拡大防止のため残念ながら中止が決定していますが、豊作を祈る神事は執り行われます。

(電話) 096-1328-1284
(FAX) 096-1326-1580
JA熊本県会館10階

五穀豊穣を祈る阿蘇神社の農耕祭事の一、「御田植神幸式」(通称「おんだ祭」)は、阿蘇神社の12の神々を乗せた神輿と、総勢200名の神幸行列が青田を練り歩き、神様に稻の生育具合を見て頂く神事です。白装束に身を包み、神様の食事を入れた桶を頭に載せた「宇奈利(うなり)」と呼ばれる女性達が、ゆつたりと阿蘇の田園を進む姿は、厳かで神秘的に見えます。今年の神幸行列は、新型コロナ拡大防止のため残念ながら中止が決定していま

「根子岳を背に」



が
あ
き
と

撮影者 宮森 誠一様
第8回 未来に伝えたい農業・農村の風景
フォトコンテスト入選作品